

試聴会・訪問記収載

シマムセン Technics 試聴会報告(2025.11.16) (HP 収載)

—SL-1200GME vs. SL-1200G—

1. はじめに

シマムセンで開催された Technics SL-1200GME、SL-1200G 比較試聴会に行ってきました。

2. シマムセン Technics 試聴会の開催要項と使用機器

Technics SL-1200GME、SL-1200G 比較試聴会の開催要項と使用機器は以下のとおりです。

日時

2025年11月15日(土) 16日(日)

Technics SL-1200GME、SL-1200G 比較試聴体験会

11月15日(土) 11:00~18:00

11月16日(日) 11:00~16:00

当日はそのままシマムセン 3F・第二試聴室へお越しください

[使用機材]

	(メーカー / 機種)	(税込み定価)
[アナログプレーヤー]	Technics / SL-200GME	(¥599,940)
	Technics / SL-1200G	(¥450,000)
[プリアンプ]	Accuphase / C-3900S	(¥2,420,000)
[パワーアンプ]	Accuphase / A-300	(¥2,970,000/ペア)
[フォノイコライザ]	Accuphase / C-57	(¥825,000)
[スピーカー]	B&W / 802D4 B	(¥5,522,000/ペア)

会場 シマムセン 3F・第二試聴室

講師 メーカー説明員

Technics 「SL-1200」シリーズ。

その集大成として誕生したのが、限定生産のマスターエディションモデル SL-1200GME/SL-1210GME です。

ブランド復活後のダイレクトドライブターンテーブル第1弾「SL-1200G」をベースに、最新技術と10年にわたる開発の知見を惜しみなく投入。新ツインローター型コアレス・ダイレクトドライブ・モーターをはじめとする基本構成はそのままに、モーター回転の微振動を抑制する $\Delta\Sigma$ （デルタシグマ）-Drive、低ノイズ化を徹底したMulti-Stage Silent Power Supply、さらに剛性を高めた新コアレス・ダイレクトドライブ・モーターを採用しています。また、SL-1200GR2／SL-1300Gの開発で培われた高音質設計のノウハウを継承し、ダイレクトドライブの伝統と最新のアナログレコード再生技術を融合。マグネシウム製トーンアーム、二層構造シャーシ、新開発のグラファイトメタリック塗装などにより、高剛性・低共振化をさらに推し進めています。外観の上質な質感はもちろん、回転精度・トルク感・静肅性のすべてが一段と進化。従来機「SL-1200G」との比較試聴を通じ、その“静けさの中の躍動”をぜひご体感ください。再生系には、Accuphaseのハイエンドコンポーネント群（C-3900S/A-300/C-57）とB&W 802D4を使用。SL-1200シリーズを通して培われたダイレクトドライブ方式が、アナログ再生の真価を余すところなく引き出します。ぜひシマムセン3F・第二試聴室にて、新モデルSL-1200GMEを「見て」、そして「聴いて」。Technicsが磨き上げた“SL-1200”的進化をご確認ください。





当日のセッティング



SL-1200G



SL-1200GME

3. 試聴経過

試聴のために持参した盤は、下記のものです。

ドイツグラモフォン 486 4177 (45回転盤)

イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ

ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)

GOOD TIME JAZZ S10054

消防5人組プラス2 (TRADITIONAL JAZZ)

ULTRAART RECORD UA-1004 (78回転盤)

小川理子トリオ

イザイについて SL-1200GME と SL-1200G で聴き比べましたが、倍音や胴鳴りで明らかに SL-1200GME に歩がありました。

TRADITIONAL JAZZ は、SL-1200GME と SL-1200G の聴き比べで、バンジョーの切れやチューバベースの解像度で差が着きました。

これらは最初の数秒で差が分かりましたので、SL-1200GME の回転の微振動を抑制する $\Delta\Sigma$ -Drive などの効果があるものと思われます。

SL-1200GME のワウフラッターは 0.025 だそうです。

そこでアナログマジックで、下記のターンテーブルに関して測定したワウフラッターの数値と波形を提示して単に数値だけではなく、波形も重要な要素ではないかと指摘しました。例として Technics SL-1600 と YAMAHA GT-750 では波形がかなり違い、前者は鋸歯状、後者は少し角がとれて丸みを帯びています。

Technics SL-1600 YAMAHA GT-750 (DD)

GARRAD 401 (アイドラー)

LINN LP-12 PIONEER PL-31E Lux PD-171 (ベルト)

このようなデータと聴感の相関を調べることや聴感で差がついた SL-1200GME と SL-1200G の波形のデータの比較にも興味があります。

Technics が DD を採用した理由を聞いたところ、ノイマンのカッティングマシンが DD 方式だからマッチングを考えて採用したということでした。

検索すると 1980 年代にノイマンと TELDEC が開発したカッティングマシンは確かに DD 方式のようですが、1950 年代後半～1970 年代は、まだディジタル制御はないと思いますので、カッティングマシンも DD 方式でないかもしれません、興味のあるところです。

さらに Harbeth のスピーカーの新製品も、別室で試聴してきましたが、大阪ハイエンドオーディオショールームの印象どおりでした。

Harbeth

HL-Compact7ES-3 XD2

2026年に創立50周年を迎えるハーベス。
“黄金のバランス”と称されるその正確性と音楽性を
高次元で両立させ、高い評価を受けている
HL-Compact7ES-3XDシリーズが、
HL-Compact7ES-3XD2へ
さらなる進化を果たしました。

2ウェイ2スピーカー フロント・バスレフ型

¥ 1,078,000(税込/ペア)

シマムセン
CYMA

11月11日～17日 期間限定展示

4.まとめ

SL-1200GME と SL-1200G の聴き比べで前者の改善効果を認めました。その他有意義な意見交換ができました。

以上